

地域活性化という「遊び」

52

京都市
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

去 年の今頃は

県境またいで自転車であちこち走り回っていた子たちも

今年はさすがにそういうわけにはいきません。

かといって家でおとなしくできるタイプの子どもたちではないのですが

最近なぜか

少しおとなしくしています。

子供がおとなしくしていると

大人は安心できるのでは？

と思われるかもしれませんが

実は違います。

子育てされた方なら経験があると思いますが

子供がなんかおとなしいと思ったら

大変なことになっていた

というのはよくあることです。

大変なことといっても

大変に思うのは

実は大人の方だけで

そんな時の子供たちは

大人の気持ちなんてどこ吹く風。

大人が目を離して

くだらない邪魔が入らない時こそ

子供らしさを100%発揮して

自由な発想で面白く実に有意義な時間を過ごしています。

大人が驚いてしまうのは

子供の行動が自分たちの想定を超えてしまっているからです

よくよく考えてみれば

この先新時代を作っていくかばなら

ない子供が

今の大人が想像できる程度のことを

やっていては

逆に未来はないのではないかと僕は

思っています。

さてその最近おとなしい子たちが

が熱中しているのが写真。

常にデジタル一眼レフを持ち歩いて

は色々撮影しています。

最初は僕が15年くらい前に買ったデ

ジタル一眼レフを与えたのですが

しばらく使って

ちよつとなれてくるとスペックが足

最近おとなしそうに見えた
子供たちが熱中していたこと



内緒で買った一眼レフ。いちいち確認しませんが弟も持ってるみたいで、お互いに撮影したのだと思います。



仕事に遭遇したアシナガバチの巣。

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかわらオガニックレストランを運営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人々が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダッシュ村副村長。

りないと言ひ出しました。プロでもないのにそんな贅沢なものが必要なিদろ！やる気があればスマホでもタブレットでも素晴らしい写真を撮れるはずだ！と僕から猛反対を受けあまりの剣幕にその場はわかったわかったと言いなながら



カフェ宣伝用の撮影もしてくれています。



こんな特撮もあります。



飛び越える写真。服が化纤なのでホント危ないです。

お疲れ様と仕事が終わってタブレットの写真を見ると炭焼きの初期に起こす大きな炎の上を飛び越える子供たちの危なくい写真がいっぱい入っていました。実は写真を保存するタブレットが家族共用の一台しかない所以他们が撮影した写真は否が応でも僕の目にも入ってしまうのです。僕が視線をタブレットから子供の方に変えてジロツと睨むと長男はニヤツと笑っていました。

後で僕に内緒で自分たちの思う一眼レフを買ったようです。一眼レフは色も形もよく似てるので最初は気が付きませんでしたがある日テーブルの上にカメラが置いてあつて僕が与えたものとメーカーが違ったので気が付きました。僕も芸術家の端くれなのでその辺は見えて見ぬ振り。というより少し嬉しいくらい。自分が楽しいとかやりたいと思うことを親に反対されて素直に辞めてしまう

ようでは逆にとっても心配になります。本やネットで情報を集めながらライトやスタンドなども買い揃え自分の料理や包丁を撮ったり最近では三男が熱中しているコーヒーの撮影もしてSNSで宣伝もしてくれているようです。ただ熱中すると周りが見えないタイプなので淹れてくれたコーヒーを飲むとうすとちよつと待って！となつて撮影が始まると光がどうか背景がどうかと言ひ出して結局冷めたコーヒーを飲むことになります。

あ

また仕事を手伝ってもらっているときもアリが出てくると仕事ストップ蜂の巣が出てくるとまたストップ虹が出るとまたストップ珍しい野草を見つけるとストップとなつてもういいだろ！とこつちがいい加減イライラしてしまうので最近ではこれとこれここまでやっておいてと指示を出し現場を離れることにしています。

あ

伐採中の放置竹林の竹を使って簡易な炭焼きを頼みいつもならワーワー元氣よく作業する声がか聞こえるのですがその日は妙に静か。